



安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2020/03/09
SDS整理番号 02113150

製品等のコード : 0211-3150、0211-3160、0211-4170、0211-3180

製品等の名称 : 酢酸ブチル (酢酸 n - ブチル)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) 溶剤、人造真珠用塗料、天然ゴム、果実エッセンス、医薬品 など



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分2
自然発火性液体 : 区分外
金属腐食性物質 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分外
急性毒性 (吸入: 蒸気) : 分類できない
急性毒性 (吸入: ミスト) : 分類できない
皮膚腐食性・刺激性 : 区分3 【国連GHS分類】
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2B
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) : 区分3 (気道刺激性、麻酔作用)

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 : 区分3

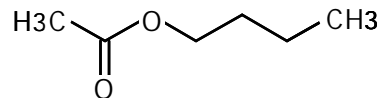
注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気
軽度の皮膚刺激
眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
水生生物に有害

注意書き

【安全対策】
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。



保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を多量の水と石鹼で洗うこと。

眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

| | |
|-------------|--|
| 単一製品・混合物の区別 | : 単一製品 |
| 化学名 | : 酢酸ブチル (別名) 酢酸n-ブチル、エタン酸ブチル、ブチル=アセタート、 n-ブチル=アセタート、ブチルアセテート、 酢酸ブチルエステル、酢酸ノルマルブチル (英名) Butyl acetate, n-Butyl acetate, Ethanoic acid butyl, Acetic acid butyl, Acetic acid n-butyl, Acetic acid butyl ester, N-butyl acetate (EC名称)、 Acetic acid, butyl ester (TSCA名称) |
| 成分及び含有量 | : 酢酸ブチル、 99.0%以上 |
| 化学式及び構造式 | : $\text{CH}_3\text{COOCH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_3$ 、 $\text{CH}_3\text{COOC}_4\text{H}_9$ 、 $\text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_2$ 、 構造式は上図参照(1ページ目)。 |
| 分子量 | : 116.16 |
| 官報公示整理番号 | 化審法: (2)-731 安衛法: 2-(6)-226 |
| CAS No. | : 123-86-4 |
| EC No. | : 204-658-1 |
| 危険有害成分 | : 酢酸ブチル ・労働安全衛生法 通知対象物 政令番号 181 表示対象物 政令番号 181 危険物・引火性の物 有機溶剤中毒予防規則 第2種有機溶剤等 作業環境測定基準、作業環境評価基準 危険物第4類引火性液体 第二石油類 非水溶性 ・消防法 |

4. 応急措置

| | |
|-----------|---|
| 吸入した場合 | : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | : 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。 |
| 目に入った場合 | : 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてから ゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの 隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、 洗浄を続ける。 |
| 飲み込んだ場合 | : 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。 直ちに口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせない。 強制的に吐かせると、本製品が揮発性のために嘔吐物の一部が肺に入り 高熱が出て出血性肺炎を引き起こす危険性があるため、水などを飲ませ て無理に吐かせてはいけぬ。 直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。 |

予想される急性症状及び遅発性症状 :

吸入 : 咳、咽頭痛、めまい、頭痛
 皮膚に付着 : 皮膚の乾燥
 眼に付着 : 発赤、痛み
 経口摂取 : 吐き気

医師に対する特別注意事項 : 必要に応じて有機溶剤用の防毒マスクを着用する。
 火気に注意する。

5. 火災時の処置

- 消火剤 : 本製品は可燃性、引火性であり、燃焼しやすい。
 粉末、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧
 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水 (本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)
 特有の危険有害性 : 引火性が極めて高い。
 極めて燃え易いので、熱、火花、火炎で容易に発火する。
 引火点(22)以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
 本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性がある。
 加熱により容器が爆発するおそれがある。
 火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を遮断する。
 火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
 風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
 蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
 油又は有害液体物質による海洋の汚染の防止のため、海上で薬剤を使用する場合は、国土交通省令・環境省令の規定に適合すること。
- 回収、中和 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、液面を泡で覆い密閉できる容器などに回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
- 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 周辺の発火源を速やかに取除く。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
 技術的対策 : 裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。
 引火点(22)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
 指定数量の1/5以上、1未満 (少量危険物) の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。
 炎、火花または高温体との接触を避ける。
 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。

- 局所排気・全体換気 : 作業場には防ばく型の局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を設置する。
蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。
- 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 炎、火花または高温体との接触を避ける。
- 保管
技術的対策 : 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
- 保管条件 : 日光や高温多湿を避けて保管する。
容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。
施錠して保管する。
危険物を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示を行う。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 酸化剤、ハロゲン類、強酸、アルカリ性物質
- 容器包装材料 : ガラスなど。
アクリル樹脂など多くのプラスチック、ゴムを侵す。

<参考> 容器包装材料の室温における耐薬品性(あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要)

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 ×:不良 -:データなし 】

スチレンゴム× クロロブレンゴム(ネオブレン)× ニトリルゴム× ブチルゴム
天然ゴム× シリコンゴム× フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)× テフロン
軟鋼 ステンレス(SUS304 SUS316) チタン アルミニウム 銅
軟質塩ビ× 硬質塩ビ× ポリスチレン× ABS× ポリエチレン ポリプロピレン
ナイロン アセタール樹脂 - アクリル樹脂× ポリカーボネート× ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 150ppm
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):
日本産衛学会(2019年版) 100ppm 475mg/m3
ACGIH(2019年版) TLV-TWA 150ppm 713mg/m3
TLV-STEL 200ppm 950mg/m3
- 設備対策 : 防爆の電気、照明機器を使用する。
作業場には防ばく型の局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を設置する。
静電気放電に対する予防措置を講ずる。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
- 保護具
呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク)を着用する。
手の保護具 : 保護手袋(ポリエチレン製、テフロン製など)を着用する。
眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態、形状、色など : 無色の揮発性の液体
臭い : 特異臭(芳香臭)
pH : 約5(0.5%水溶液、20)
融点 : -78
沸点 : 約126

| | |
|-----------------------------------|---|
| 引火点 | : 22 (密閉式) |
| 爆発範囲 | : 下限 1.2 vol%、上限 7.6 vol% |
| 蒸気圧 | : 1.2 kPa (20)、1.53 kPa (25) |
| 20 °Cでの蒸気/空気混合 気体の相対密度(空気 = 1) | : 1.04 |
| 蒸気密度(空気 = 1) | : 4.0 |
| 密度 | : 0.878 ~ 0.883 (g/cm ³ , 20 °C) |
| 溶解度 | : 水に溶けにくい(0.7 g/100mL, 20 °C)。 エタノール、ジエチルエーテルに極めて溶けやすい。 ヘキサン、石油エーテルなど多くの有機溶剤に溶ける(混和する)。 |
| オクタノール/水分配係数 | : log Pow = 1.82 |
| 自然発火温度 | : 422 |
| 分解温度 | : データなし |
| 臭いのしきい(閾)値 | : データなし |
| 粘度 | : 0.7375 mPa・s (=0.7375 cP) (20 °C) |

GHS分類

| | |
|---------|---|
| 引火性液体 | : 引火点(22 : 密閉式 (ICSC (2003))) < 23 であり、 初留点(126 (ICSC (2003))) > 35 であることから、 区分2とした。 引火性の高い液体及び蒸気(区分2) |
| 自然発火性液体 | : 発火点は422 (Ullmanns (E) (6th, 2003)) であり、常温の空气中 で自然発火しないと考えられるので、区分外とした。 |
| 金属腐食性物質 | : 鋼およびアルミニウムが容器として使用できる(ボンメル (1996)) との記述から、区分外とした。 |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|--|
| 安定性 | : 通常の取扱条件において安定である。 アルカリと混触すると加水分解し、酢酸とn-ブタノールを生じる。 湿気(水)により徐々に分解し、酢酸及びn-ブタノールを生じる。 |
| 危険有害反応可能性 | : 本品の蒸気は空気とよく混合し、爆発性混合物を生成しやすい。 本品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり 遠距離引火の可能性がある。 強酸化剤、強塩基、強酸と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。 アクリル樹脂など多くのプラスチック、ゴムを侵す。 |
| 避けるべき条件 | : 高温、日光、湿気、裸火、スパーク、静電気、その他発火源 |
| 混触危険物質 | : 強酸化剤(硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなど)、 強塩基、強酸 |
| 危険有害な分解生成物 | : 一酸化炭素、二酸化炭素 |

11. 有害性情報

| | |
|-----------|--|
| 急性毒性 | : 経口 ラットのLD50値として、> 3,200-14,130 mg/kg (SIDS (2009))、 10,700-14,130 mg/kg (DFGOT vol. 19 (2003))、12,760 mg/kg (雄)、 10,736 mg/kg (雌) (SIDS (2009))、13,100 mg/kg (雄)、11,000 mg/kg (雌) (CICAD 64 (2005))、14,130 mg/kg (CICAD 64 (2005))、環境省 リスク評価第1巻 (2002)、ACGIH (7th, 2001)) との報告に基づき、 区分外とした。 経皮 ウサギのLD50値として、> 5,000 mg/kg (ACGIH (7th, 2001))、 > 5,000-17,600 mg/kg (SIDS (2009))、> 14,080 mg/kg (雄、雌) (SIDS (2009))、> 20 mL/kg (=17,600 mg/kg) (DFGOT vol. 19 (2003))、 ACGIH (7th, 2001)) との報告に基づき、区分外とした。 吸入(蒸気) ラットのLC50値(4時間)として、2,000 ppm (ACGIH (7th, 2001))、> 4,000 ppm (DFGOT vol. 19 (2003))、> 32,000 mg/m ³ (=6,752 ppm) (CICAD 64 (2005))、LC50値(6時間)として> 8,000 ppm (雄、雌)(4時間換算値: 9,798 ppm) (SIDS (2009)) との4件の報告が ある。うち1件は区分3に該当するがその他3件の報告からは区分を特定 できないので、分類できないとした。 吸入(ミスト) ラットのLC50値(4時間)として、0.74 mg/L (OECD TG 403) (SIDS (2009))、0.74 mg/L、1.8 mg/L、5.1 mg/L、> 45 mg/L (CICAD 64 (2005))、1.86 mg/L (DFGOT vol. 19 (2003))、ACGIH (7th, 2001))、> 23.4mg/L (OECD TG 403) (SIDS (2009)) との7件の報告が ある。OECD TG 403準拠データ間においても大きなばらつきがある ために、分類できないとした。 |
| 皮膚腐食性・刺激性 | : ウサギに本物質(99.6%)を4時間適用した結果、刺激反応はみられず、 痂皮形成及び浮腫のスコアは0であったとの報告(SIDS (2009))や、モル モットを用いた試験において刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2009))。また、ヒトに対して本物質4%を48時間閉塞適用した パッチテストにおいても刺激性なしとの報告がある(SIDS (2009))。 |

- 以上の結果から、区分3 (国連GHS分類) とした。
ただし、分類JISでは区分外である。
軽度の皮膚刺激 (区分3)
- 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性: ウサギの眼に本物質0.1 mLを適用した結果、軽度から中等度の虹彩炎がみられたが48時間後には回復したとの報告や (SIDS (2009))、ウサギを用いた他の眼刺激性試験で軽度の刺激性、又は刺激性なしとの結果が複数ある (SIDS(2009))。また、本物質 (70-1400 mg/m³) にばく露されたヒトにごく軽度の刺激性がみられたとの報告がある (SIDS (2009))。以上の結果から、区分2 B とした。
- 呼吸感受性 : 眼刺激 (区分2B)
皮膚感受性 : データ不足のため分類できない。
: データ不足のため分類できない。
なお、モルモットを用いた試験やマウスの耳介膨張試験において感受性はみられなかった (SIDS (2009)) との報告や、ヒトに対して感受性は認められない (環境省リスク評価第1巻 (2002)) などの記載があるが、試験法や結果の詳細について不明であるため、分類に用いるには不十分なデータとした。
- 生殖細胞変異原性 : データ不足のため分類できない。
In vivoデータはなく、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である (SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 19 (2003)、NTP DB (Access on October 2014)、HSDB (Access on September 2014))。
- 発がん性 : データ不足のため分類できない。
IARC、ACGIH、NTP、EPAに記載がないため、分類できない。
- 生殖毒性 : データ不足のため分類できない。
ラットを用いた吸入経路による催奇形性試験において、母動物毒性 (体重減少) がみられる用量で、胎児成長の遅延、肋骨形成異常 (波状、癒合、分岐) がみられ、ウサギを用いた吸入経路による催奇形性試験において、母動物毒性はみられなかったが、胎児に胸骨分節不整配列、網膜ひだの発生率の増加、胆嚢の形態学的変異がみられ、これらは奇形ではなく変異とみられており、催奇形性を含め児の発生に悪影響は認められていない (SIDS (2009)、CICAD 64 (2005)、DFGOT vol. 19(2003)、ACGIH (2001))。雌ラットに交配前3週間から吸入ばく露し、無処置の雄ラットと交配し、さらに妊娠16日まで吸入ばく露した試験において、母動物毒性 (摂餌量減少、体重減少、肝臓の絶対重量減少、腎臓及び肺の相対重量増加) がみられたが生殖能に影響はなく、胎児に対して胎児成長の遅延がみられた (CICAD 64 (2005)、DFGOT vol. 19 (2003)、環境省リスク評価第1巻 (2002)、ACGIH (2001))。これらの試験では、催奇形性はみられず、胎児の成長遅延、変異はわずかな影響であることからガイダンスに従い分類根拠としなかった。
以上、発生毒性、雌動物の生殖能に関して影響はみられていない。しかし、雄動物の生殖能に関する情報が不十分であることから分類できないとした。
- 特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) : 本物質は、気道刺激性がある (産衛学会許容濃度の提案理由書 (1994)、環境省リスク評価第1巻 (2002)、ACGIH (7th, 2001)、CICAD 64 (2005)、DFGOT vol. 19 (2003))。ヒトにおいては、蒸気吸入ばく露により、頭痛、悪心、高濃度でめまい、呼吸困難、意識喪失、衰弱が報告されている (産衛学会許容濃度の提案理由書 (1994)、ACGIH (7th, 2001)、CICAD 64 (2005)、DFGOT vol. 19 (2003))。実験動物では、ラットの1.3 mg/Lの吸入ばく露で協調運動失調、努力呼吸、麻酔作用、ラットの32.6 mg/Lの吸入ばく露で呼吸困難、ラット、マウスの10,736 mg/kgの経口投与で中枢神経系抑制、協調運動失調、衰弱、体温低下がそれぞれみられている (CICAD 64 (2005)、ACGIH (7th, 2001)、SIDS (2009))。ラットの吸入ばく露で報告されている協調運動失調などの症状は本物質の麻酔作用によるものと考えられた。以上より、本物質は気道刺激性及び麻酔作用があると判断し、区分3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。
呼吸器への刺激のおそれ (区分3)
眠気又はめまいのおそれ (区分3)
- 特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) : 実験動物ではラットに本物質 (蒸気と推定) を13週間吸入ばく露した試験において、区分外の高濃度 (1,500 ppm以上: 7.05mg/L/6時間) で、呼吸器への影響 (鼻腔刺激症状、嗅上皮の壊死) がみられたのみであった (SIDS (2009)、CICAD 64 (2005)、DFGOT vol. 19 (2003))。また、モルモットに本物質を28日間吸入ばく露した試験でも、4,840 mg/m³ (ガイダンス値換算: 1.00 mg/L/6時間) で、血液検査 (血球数)、尿検査、病理検査 (剖検) に影響を認めなかった (環境省リスク評価第1巻(2002)、CICAD 64(2005)) との記述がある。しかし、他の経路での毒性情報及びヒトでの知見がなくデータ不足のため「分類できない」とした。

吸引性呼吸器有害性 : 20 の動粘性率は計算値で0.838mm²/secである。
化学性肺炎の動物データが無いため分類できないとした。

12. 環境影響情報

- 水生環境急性有害性 : 魚類 (ファットヘッドミノ) での96時間LC50 = 18 mg/L (CICAD 64, 2005) であることから、区分3とした。
水生生物に有害 (区分3)
- 水生環境慢性有害性 : 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BODによる分解度 : 98% (SIDS, 2009)、藻類 (セネデスマス) の72時間EC10 = 296 mg/L (CICAD 64, 2005) であることから、区分外となる。
慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、魚類 (ファットヘッドミノ) の96時間LC50 = 18 mg/L である (CICAD 64, 2005, SIDS, 2009) が、急速分解性があり (BODによる分解度 : 98% (SIDS, 2009))、生物蓄積性が低いと推定される (LogKow = 1.78 (PHYSPROP Database, 2009)) ことから、区分外となる。以上の結果から、区分外とした。
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考) (1) 燃焼法
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉 (おが屑) 等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。
(2) 活性汚泥法
生分解性があるので、低濃度の廃水は活性汚泥処理が可能である。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 129

国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 1123
Proper Shipping Name : BUTYL ACETATES
Class : 3 (引火性液体)
Sub risk : -
Packing Group : II
Marine Pollutant : No (非該当)
Limited Quantity : 1L

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 1123
Proper Shipping Name : Butyl acetates
Class : 3
Sub risk : -
Packing Group : II

国内規制

陸上規制情報 (消防法、道路法の規定に従う)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 1123
品名 : 酢酸ブチル
クラス : 3
副次危険 : -
容器等級 : II

| | |
|---|--|
| 海洋汚染物質 | : 非該当 |
| 少量危険物許容量 | : 1L |
| 航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う) | |
| 国連番号 | : 1123 |
| 品名 | : 酢酸ブチル |
| クラス | : 3 |
| 副次危険等級 | : - |
| 少量輸送許容量 | : 1L |
| 特別の安全対策 | : 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。 |

15. 適用法令

| | |
|-------------------|---|
| 労働安全衛生法 | : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第181号「酢酸ブチル」、対象重量%は 1) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令番号 第181号「酢酸ブチル」、対象重量%は 1) (別表第 9) 第 2 種有機溶剤等 (施行令別表第 6 の 2 ・有機溶剤中毒予防規則第 1 条第 1 項第 4 号) 危険物・引火性の物 (施行令別表第 1 第 4 号) 作業環境測定基準、作業環境評価基準 |
| 消防法 | : 危険物第 4 類引火性液体、第二石油類非水溶性液体 指定数量1000L 危険等級 (法第 2 条第 7 項危険物別表第 1) |
| 毒物及び劇物取締法 | : 非該当 |
| 化学物質管理促進法 (PRTR法) | : 非該当 |
| 船舶安全法 | : 引火性液体類 (危規則第 2 , 3 条危険物告示別表第 1) |
| 航空法 | : 引火性液体 (施行規則第 1 9 4 条危険物告示別表第 1) |
| 労働基準法 | : 疾病化学物質 (法第 7 5 条第 2 項、施行規則第 3 5 条別表第 1 の 2 第 4 号) |
| 海洋汚染防止法 | : 有害液体物質 Y 類物質 (施行令別表第 1) |
| 水質汚濁防止法 | : 生活環境項目 (施行令第三条第一項) 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」 (排水基準) 160mg/L 以下 (日間平均 120mg/L 以下) (注) 排水基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合はそれに従うこと。 |
| 輸出貿易管理令 | : キャッチオール規制 (別表第 1 の 1 6 項) 第 29 類 有機化学品 HSコード (輸出統計品目番号、2020年1月1日版) : 2915.33-000 「酢酸ノルマル-ブチル」 |

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

| | |
|--|-----------------------------|
| 参考文献 | : |
| 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社 |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社(2007) |
| 化学物質の危険・有害便覧 | 中央労働災害防止協会編 |
| 化学大辞典 | 共同出版 |
| 安衛法化学物質 | 化学工業日報社 |
| 産業中毒便覧(増補版) | 医歯薬出版 |
| 化学物質安全性データブック | オーム社 |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) | 三共出版 |
| 化学物質の危険・有害性便覧 | 労働省安全衛生部監修 |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances | NIOSH CD-ROM |
| GHS分類結果データベース | nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP |

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。